

シャンソン歌手 芹沢抄子

原作者の思いを大切に 共感したままに伝えていきたい

なでしこ力



芹沢抄子さん

「カフェ・コンセール・エルム」(千種区吹上)の看板歌手の一人、芹沢抄子さん。エルムでは月に10回以上出演し活躍している。ファーストCDに収められた「シレーヌ」をフランスの原作者が気に入り、菅原洋一氏に次いで日本で10人目の「法定訳詞創唱者」となった。

*「法定訳詞」については記事後半に解説。

「魅せるシャンソン歌手」として経歴を積み重ねてきた芹沢さん。豊かな表現力と甘くエレガントな歌声にファンが多い。今年、ファーストCDの収録曲「シレーヌ」が、フランスの音楽著作権団体(SACEM)に登録され、エルムのオーナーである加藤修滋さんの日本語訳が「法定訳詞」として認められた。これにより芹沢さんは菅原洋一氏に続いて、日本で10人目のシャンソン・ルネッサンス曲「法定訳詞創唱者」となった。

また名古屋市音楽プラザでの「平和希求コンサート」に今年は7回出演予定で、昨年に続き最多出演者となる。エルム初代館長の故・加藤ハツさんの「歌い手には平和を願う歌を歌う義務がある。なぜなら平和でなければ文化は育たないから」という遺言を具現化する活動の先頭に芹沢さんは立っている。

華やかに活躍する芹沢さんがシャンソン歌手になったのは、偶然が重なったことだった。もともと音楽好きだった芹沢さんは、友人に誘われてエルムに来店。アットホームな店の雰囲気

と、シャンソンの魅力にひかれた。「こんな音楽の世界もあるんだ。私もいつかシャンソンを習ってみたい」と思ったという。

しかしこの数年後には結婚、二人の娘を育てるうちに一度は思いが消えてしまった。子育てが一段落した頃、エルムを教えてくれた友人が若くして病気で亡くなった。その年末に「彼女が教えてくれた“シャンソンを歌う夢”を叶えなければ」と思い、再びエルムを訪れた。

その翌年1月には、エルムでのシャンソンレッスンを開始。エルムのオーナーである加藤修滋さんと出会い、運命は変わっていく。「モデルをやっていたなら人前に入るのは平気だね？」と言われ、3月には「エルム・シスターズ」として、同店のナイトショーで歌い始めた。11月には単独出演でライブを行うまでになった。「わからないまま、加藤さんに言われるままに……という状態でした」と振り返る。「実はエルムと私を結びつけてくれた亡き友人は、ジャズシンガーになりたかったと後で知りました。彼女と私の夢は重なっていたんですね」